



2025（令和7）年1月27日発行  
 （編集）愛光本部  
 （TEL）043-484-6391  
 （HP）<https://www.rc-aikoh.or.jp/>

【日韓福祉施設交流 ラファエルの家訪問】

12月18日(水)～20日(金)の2泊3日で、韓国にある社会福祉法人「夏祥福祉財団 ラファエルの家」を、愛光から職員3名が訪問しました。コロナ禍で途絶えていた交流が再開され、現地では、院長をはじめ、利用者や職員から熱烈的な歓迎を受けました。

訪問中は、施設の見学や愛光についてのプレゼンテーションを行いました。また、韓国民族村を訪れ、韓国の歴史について学ぶ機会もありました。意見交換では、日本と韓国の福祉制度の違いをはじめ、医療従事者との連携、キムチ(発酵食品)を活用した食文化と栄養管理、個別支援計画の違い、それに基づく支援プログラムの提供方法など、さまざまなことを学びました。

□事業経過など(2024.12.1～)

1	日	山王地区公園清掃
3	火	業務執行会議
4	水	地域食堂会議
5	木	メンター委員会
7	土	評議員会
10	火	衛生委員会・感染対策委員会/後援会運営委員会/防災委員会
11	水	子育てWT/コ・ヒューマントレーニングWT/糖尿病研修
12	木	2年目交流会/広報委員会/山王小福祉学習
13	金	ボランティア委員会/山王小福祉学習
15	日	ボランティア講座
16	月	佐倉圏域実績会議
17	火	千葉県監査/佐倉南図書館販売会
18	水	地域食堂ともいき/栄養改善委員会/ラファエルの家訪問
19	木	知的協全国大会/研修委員会/ラファエルの家訪問
20	金	知的協全国大会/70周年WT/ラファエルの家訪問
23	月	入退所WT/テクニカルスキル研修
24	火	コンプライアンス委員会
25	水	障害者支援事業部実績会議/地域福祉事業部実績会議/財務P/BCP研修
26	木	高齢者福祉事業部実績会議
27	金	事業所挨拶まわり/本部実績会議

## ■月報から

### □インフルエンザ発生状況(ルミエール)

12月の終わりごろ、利用者様と職員の間でインフルエンザが発生いたしました。利用者様は20名以上が感染され、職員も複数名が発症する事態となり、対応に追われることとなりました。今回の感染拡大は、3ホームで同時に発生した点がこれまでと大きく異なります。これまでは多くても2ホームで終息していましたが、3ホーム同時の感染では、次のような課題が顕著になりました。

1. ガウンやヘアキャップなどの消耗品の使用量が急増したこと。
2. ポータブルトイレが不足したこと。
3. 特に、職員の人手不足が深刻だったこと。

また、各ホームで隔離対応が必要となり、全体の情報共有が難しくなるという問題もございました。しかし、現在試験運用中のビジネスチャットアプリが、情報共有ツールとして大いに役立ちました。このアプリにより、その日の陽性者数や利用者様・職員の状況を即時に発信できたため、出勤していない職員も施設全体の状況を把握することができました。その結果、休み明けの出勤時の不安が軽減されたと考えております。  
(ルミエール課長 原 宏之)

### □どんなに業務に追われていても…(めいわ)

コンプライアンス委員会では、毎月虐待防止チェックリストとアンケートを発信し、その結果を職員会議で振り返るようにしています。12月のアンケートには次のようなコメントが寄せられました。

(質問)『職員のサービス提供や利用者への対応について問題があると感じることがある。』

(コメント)『業務に追われているせいか分かりませんが、利用者とのコミュニケーションや日々の生活支援が十分にできていない気がします。』

これは、おそらく多くの職員が抱えている課題だと思います。こうした状況の中で、どのように業務に取り組み、利用者と向き合っているかについて意見を交換しました。

#### 【業務の取り組み方】

コロナ禍でもそうでしたが、職員が足りないときこそ、めいわは団結できると感じています。チームで動けることがめいわの強みなので、横の連携を活かしていきたいです。

忙しいと思わないようにしています。焦るとミスが増えるからです。

慌てて無駄な動きをしてしまうことがあるので、そのような部分を減らし、先回りして動けるようにしたいと思います。

#### 【利用者との関わり】

担当利用者の近くにいたいと思うのですが、なかなか十分に関われていません。そのため、業務の合間にできるだけ関わるようにしています。

職員の忙しさは利用者には関係ないので、忙しさを感じさせないようにしています。利用者との限られた会話時間の中で、自分が声をかけられなかった場合、どんな気持ちになるだろうと考えます。声をかけることが少ない利用者にも積極的に声をかけるようにしています。

業務に追われている現状に対して、個々のスキルアップ、チーム力、連携、効率化といった意見に共感し、さらに「どんなに業務に追われていても、やっぱり大事なものは利用者との関わりだ」という意見が全体的にあったことが嬉しいです。お互いに共感し、参考になる良い意見交換ができました。

(めいわ課長 中田 憲一郎)

### □今年の締め！お楽しみ会と忘年会！（根郷通所センター）

今年は班ごとに、それぞれの「仕事の労」を労うため、お楽しみ会や近隣への外出など、仕事の合間を見計らって実施しました。

受注班は単価交渉を行い、売上がアップしました。木工班は福祉系の学校から卒業式の記念品を受注し、陶芸班は新商品の開発に力を入れていました。

酒々井サービスエリアの売上も安定しており、仕事と楽しみを両立させることができた一年だったと思います。  
(根郷通所センター所長 菊池 暁生)

### □施設として「あるべき姿」とは（リホープ）

12月19日から2日間、日本知的障害者福祉協会の障害者支援施設部会全国大会に参加しました。大会の本題は「共生社会への更なる調整」で、その中でも「意思決定支援」や「地域移行」が大きなテーマとして取り上げられました。

今回の大会で行政説明を行ったのは、障害福祉行政に携わる厚生労働省の職員であり、家族が重心の療養介護施設に入所している当事者家族の方でもあります。演者はまず家族としての思いを述べました。

「医師や他の人々から、『この方は意思表示は無理だ』と言われ続けてきました。しかし、しっかりと本人の表情などを観察していくと、小さな反応があり、何かしらの意思を示していることが分かります。」

また、権利擁護委員会では「施設解体・脱・施設」という意見が出されていますが、厚生労働省としては、それぞれの施設の専門性を重んじ、入所施設も必要であると認識しています。現状は大変ですが、入所施設だからこそ「個別支援」をしっかりと行ってほしいと訴えています。今回の法改正では、重度の方を受け入れる施設に対して報酬面で手厚くなるよう工夫し、メリハリのある制度設計がなされています。

当事者家族でもある演者の言葉は、「入所施設の皆さん、専門性の高い施設として今後も期待しています。だから、利用者の個別支援にさらに力を入れて頑張してほしい」というエールのように感じました。この言葉は、私たちにとって重く受け止めなければならないものであり、今後の支援に活かしていきたいと考えています。  
(リホープ副施設長 麻生 知明)

### □今年のクリスマス会（山王の家）

25日にクリスマス会を開催しました。11月中頃には日程が決まり、夕食後にみんなで集まり、話し合う時間を設けました。食べたいものやレクリエーションの内容について、参加者からたくさんの意見が出ましたが、最終的には何とかまとまりました。当日は10人で楽しく迎える予定でしたが、家庭の事情で1人が帰省していたため、9人で楽しい時間を過ごすことになりました。

手作りのイチゴがのったケーキ、寿司、ピザ、シャンメリーなど、お腹がいっぱいになるほど美味しくいただきました。その後、サンタが登場し、今年のプレゼントは「サンタとじゃんけん大会」でした。最後の一人が勝って、プレゼントが全員に行き渡り、それぞれが思い思いに開封し、嬉しそうな顔を見せてくれました。

その後はカラオケタイム。1人ずつ好きな曲を流して歌い、楽しい時間があっという間に過ぎました。  
(山王の家管理者 岡本 綾子)

### □30 食の提供にチャレンジ～2024 年納会～(ワークショップかぶらぎ)

12 月最終日、例年通り、かぶらぎではカフェ部門に参加する利用者による年末イベント「納会」を実施しました。これまでは昼食時間を利用して飲み物や茶菓子を提供する内容でしたが、今年の企画ミーティングで「カレーを作って食事を提供してはどうか」という案が出され、最終的に「カレーライス」「おしるこ」「飲み物」の 3 品を提供することになりました。

当日、通所が予想される人数は約 30 名。食材の量や調理器具の確保、人員の分担など、不安要素を抱えながら準備を進めました。購入した食材の量が心配で頭から離れない人や、不安を解消するために事前に自宅で同じメニューを作って練習した人もいました。

準備の甲斐があり、当日は時間通りに人数分をそろえることができ、カフェメンバーには満足げな表情が浮かびました。個性やできることがバラバラなメンバーですが、互いにフォローし合ったり、リードし合ったりする姿が見られました。  
(ワークショップかぶらぎ主任 宮部 和樹)

### □誕生会の課題(ジョーの家)

入居者の誕生会は、普段提供されない特別なメニューを楽しむ機会として、入居者にとって大きな楽しみとなっています。世話人は入居者の希望を聞き、調理を行ったり、誕生者の希望に合わせたケーキを購入したりしています。

今回、課題となったのは、入居者によってリクエストが多く、ケーキ以外にも甘味を希望されたことや、必要な材料が通常利用している生協で対応できないことでした。

誕生会は入居者にとって楽しい行事であると同時に、ホームにとっても重要なイベントです。しかし、入居者のすべてのリクエストに対応することで、世話人の負担が過剰になっていないか、また入居者間のバランスをどう取るかを考慮する必要があります。これまで世話人に任せていたメニューに一定のルールを設け、入居者の要望を尊重しつつ、施設の状況に合わせてより良い形へと改善していくことが大切であると感じました。  
(ジョーの家 高橋 健)

### □一年間お疲れさまでした。(よもぎの園)

作業場にはいつも活気があり、気が付けば師走を迎えていました。利用者の仕事は減ることなく、毎日「働く」を実感できていたように思います。例年であればお正月用の作業を請け負ったり、年末年始の長期休暇対策で仕事量が増えたりして忙しい年末ですが、今年は通常通りの運営で、仕事量も十分にありました。

作業以外では、年末の「忘年会」が楽しみの一つです。今年も昼食から忘年会を企画し、年末賞与の配布やビンゴ大会で盛り上がりました。昼食はユーカリが丘の中華料理店「彩雲」のお弁当を注文し、ボリューム満点で本格的な味付けがとても美味しかったです。お腹を満たした後は待望の「年末賞与」の配布があり、今回は昨年よりも増額して利用者に渡すことができました。最後は、よもぎ流ビンゴ大会。奇跡的に全員が商品をゲットでき、ハラハラドキドキしながら進行了ました。

ビンゴ大会を行っているとき、本部から来年度の新採用職員が施設見学に訪れていたため、飛び入り参加をしてもらいました。利用者からの温かい歓声の中、新採用職員がビンゴを回してくれて、更に会場は盛り上がりました。

忘年会の翌日が作業の最終日でしたが、ビンゴ大会でゲットした商品を身に付けて通所してきた利用者も数名いて、「昨日貰ったやつだよ」と嬉しそうに報告してくれました。

(佐倉市よもぎの園主任 近藤 真一)

### □よもぎの園 家族交流会(かけはし)

5日(木)、よもぎの園のご家族が集まり、交流会が開催されました。以前はアシスト相談員が参加して、保護者向けの相談会が行われていましたが、一昨年からは形式が変わり、今回の交流会が開催されました。

今回の参加者は14名で、若い世代の保護者が多く参加されました。これまでの交流会では「親亡き後」の話が中心でしたが、今回は仕事のスキルアップや工賃の使い道についての話が多く、特に女性利用者のご家族からはメイクに関する意見も出るなど、今までにない内容となりました。

ご本人の意向も大事ですが、ご家族のご意見を伺うことができた貴重な機会であり、親御さんの思いに寄り添いながら対応していきたいと、改めて感じました。(かけはし所長 戸室 輝大)

### □忘年会(はちす苑)

12月15日(日)に特養・ショート入居者の忘年会を開催しました。今年もご家族をお招きすることはできませんでしたが、楽しんでいただける内容を工夫しました。お寿司は各街で共通して用意し、それ以外の料理は各街ごとに考え、鍋物やスイーツを用意しました。

- 花の街:石狩鍋、クレープ
- 風の街:すいとん、ワッフル
- 虹の街:ミルフィーユ鍋、豆乳鍋、トマトベースの鍋の3種類、誕生日祝いのケーキ

すいとん作りには数名のご利用者が参加され、それぞれが「昔ながらの味」を再現しながら楽しく作り上げました。ご利用者同士で味について意見交換しながら、和気あいあいとした雰囲気で作業が進んでいきました。また、クレープ作りも一緒に楽しみながら行いました。長年料理をされていた方々が集まると、食べるだけでなく調理に参加することがとても楽しそうで、生き生きとした表情が見られました。今後も、ご利用者が積極的に参加できる行事を続けていきたいと考えています。

今年の新人職員はスイーツ作りの名人で、ワッフルを焼くのに大活躍しました。彼の趣味が役立ったことは素晴らしく、出来上がったワッフルはとても美味しいと評判でした。(はちす苑 苑長 安部 一義)

### □介護予防リーダー交流会(南部地域包括支援センター)

3日(火)、年に2回開催される介護予防リーダー交流会が行われました。今回は勉強会がメインで、明治安田生命の方を講師に招き、「睡眠と健康について」のセミナーが行われました。睡眠は毎日のことですが、普段はあまり意識していないことが多いものです。セミナーでは途中でクイズも交えながら、睡眠に関する正しい理解を深め、より良い睡眠を取るための方法について考える貴重な機会となりました。

さらに、会場の後方では測定会も実施されました。測定項目は、野菜の摂取量を確認できる「ベジチェック測定」と、体内時計を鍛える「10秒ピットリ選手権」の2つ。どちらもリーダー同士で結果を見せ合い、盛り上がっていました。

介護予防リーダーの皆さんは健康意識が高く、セミナーに熱心に参加しており、その知識を自分たちの活動に活かし、地域でも広めていただければと思います。(南部地域包括支援センター管理者 森 由美子)

### □「耳が聞こえない方の対応について」(南部地域福祉センター)

12月15日(日)、地域住民向けのボランティア講座として、「聴覚障害者との接し方」や「耳が遠い高齢者とのコミュニケーション」について、愛光ルミエールの原宏之課長に講師をお願いし、具体的でわかりやすい内容を話していただきました。講義の途中では、コミュニケーションゲームを交え、聞こえない状況でのコミュニケーション方法を参加者同士で確認しました。

また、聴覚障害者の方々が日常で使える便利グッズも紹介されました。特に、スマートフォンを使った「音声文字認識ツール(文字変換アプリ)」には、参加者全員が興味深く反応していました。

(南部地域福祉センター 青山 秀人)

### □乳幼児対象 クリスマスイベント(佐倉市南部児童センター)

今年の足形アートは、クリスマスバージョン！こどもの足形をツリーの形に見立ててデコレーションする楽しい企画です。足形アートの日は毎回多くの来館者で賑わい、皆さんが楽しみにしているイベントだと感じています。今回も予想通り、この企画を目当てに訪れた親子で、すぐに会場が賑やかになりました。さすがクリスマス！その影響力はやはり大きいです。

この日は、準備していた材料が足りなくなり、裏方では慌ててキットを補充する忙しい状況になりました。しかし、ママたちから「家ではここまで準備するのが大変だから助かります～」という声や、楽しそうな笑顔に癒されました。そのおかげで、スタッフ一同も元気をもらい、頑張ることができました。

今回の足形アートが、みなさんにとって素敵な思い出の一つになれば嬉しいです。

(南部児童センターインストラクター 吉田 知加子)

### □年末行事(学童保育所)

児童の希望で、年末のパーティーを実施しました。ご本人やご家族の体調不良や家庭の都合により、当日は多くの児童が参加できませんでしたが、その分、落ち着いた雰囲気イベントを行うことができました。缶詰のフルーツと炭酸飲料で作ったフルーツポンチで乾杯をしました。中には「缶詰が初めて」「炭酸飲料が初めて」「みんなで乾杯が初めて」と話す児童もあり、初めての経験に少し緊張しながらも、じっくり味わっていたようです。まだまだ「初めて」の経験がたくさんあることを感じました。

また、年賀状を書いてみるというイベントも実施しました。ほとんどの児童が初めての経験で、疑問や質問が次々に出てきました。何枚か書くうちに慣れてきたようで、「あの子に」「あの人に」と思いを馳せながら書いている様子が見られました。相手への思いを表現することの難しさについても話し合い、「こういうことを伝えたいけど、なんて書けばいい？」や「こんなことを書いたら失礼じゃないかな？」といった会話がありました。日常生活ではなかなか味わえない貴重な時間になったと思います。(根郷学童より)

(学童保育所主任 齋藤 理江)